

いわきを出る!

— 23 —

■掲載は旧14市町村の五十音順

旧久之浜町・大久村 ॥ 大久村編

古代が続々と産出も 公選法で「合体」1選挙区に

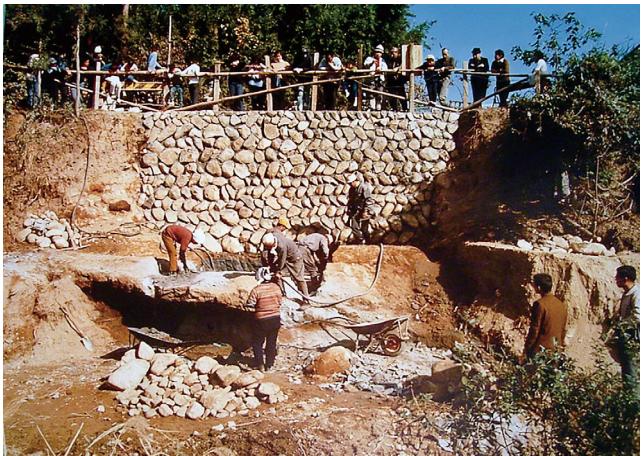
太古の遺産、中生代白亜紀
のフタバスズキリュウ、学
名「フタバサウルス」の化石
が五十七年前の昭和四十三

太古の遺産、中生代白亜紀
(一九六八)年に発見され、
一躍、全国、いや世界的にも
知られるようになつた大久地

区。その河川流域からはアン
鉱も稼働し、村の経済をも支

地域活動が盛んに

ところが、旧大久村は人口
が少なく、議席を得ることが
できない地域だったため、久
之浜との合体に踏み切り、「合
同選挙区」となつた。資料に
よると、合併一年前の大久村
の同四十(一九六五)年の人
口は二千六百二十人、世帯数



フタバスズキリュウの発掘現場=いわき観光まちづく
りピューロー提供



今夏、浜風さららでマルシェ(市)が開かれ、農産物などが販売された=久之浜

モナイト、サメなどの発見も
相次いでいる。

北境が双葉郡・広野町に接

する大久地区は、地域の西部
には三森山などの阿武隈高地
などが連なる。往時は林業が
主要産業だったが、大久川と
小久川の流域沿いに広がる平
地では稲作を中心とした農業
も営まれていた。

その傍ら、同三十(一九五
五)年ごろまでは小規模の炭

市は当時、法の規定に基づ
き、広域であることを理由に
旧市町村単位で市議会議員を
選出する「小選挙区」を採用
し、人口規模から算定して定
員を四十八人と決定。つまり、
人口による比例配分を基本と
した。

えていた。
同地区的歴史を顧みる。

明治二十二(一八八九)年

の「市制・町村制」(明治の大合併)の折は、基準を満た
さず、昭和二十八年施行の「町

村合併促進法」でも結果は白
紙となり、流域を同じくする
久之浜と歩調を合わせて歩ん
できた。

いわき市の合併で「久之浜・

大久地区」として「合体」し

た理由は、公職選挙法に由来

する。

市は当時、法の規定に基づ
き、広域であることを理由に
旧市町村単位で市議会議員を
選出する「小選挙区」を採用
し、人口規模から算定して定
員を四十八人と決定。つまり、
人口による比例配分を基本と
した。

いわき市

1966（昭和41）年10月1日、5市4町5村が大同合併して誕生。64年3月に常磐・郡山地区が「新産業都市」に認定されるまで、各市町村が協議会を設立して活動したことが契機となった。面積は1,232km²で、市としては2003年まで国内最大、県内の約9%を占める。工業出荷額は例年、東北で1、2を争う。人口は令和7年10月1日現在、31万3,570人。1997年に中核市指定



「誰か教えて、ボクはいつたい、いつまでここに…」。一人ぼっちとなつた海竜。にぎわつたあの日を思い出しているのだろうか=昨年3月に閉園された、海竜の里センター

として多くの人が訪れ楽しんでいます。渓谷の出口付近には長い歴史を持つ数件の鉱泉宿も存在。

また、流域を中心とした一帯は「化石の宝庫」と呼ばれ、「市アンモナイトセンター」や「市海竜の里センター」（昨年三月閉園）が関連施設として地域内に新設された。

近年は「一つの地域」としての行事、活動が盛んに行われている。

河川の環境保全、美化活動、ハマエンドウ、ハマヒルガオの保護、増殖をはじめ、まちづくりのための研修、交流事業、音楽家を招いてのコンサート、文学碑の建立などな

ど幅広く展開中。

また、東日本大震災後に新設、地区の拠点の一つでもある「浜風きらら」を会場に盆踊りや、今夏は新米、農産物、

野菜、ひもの類など提供、販売する市場の「きららマルシェ」を開催、多くの人でにぎわいを見せた。

地域活動の活性化に努めている一人、旅館経営の高木重行さん（六八）は、「待っていたのでは何もできません。他地区とも協力し民間レベルで実績を作らなければ。みんな手弁当です。次世代に引き継がないと」と、話している。

地元の旅館経営の高木重行さん（六八）は、「待っていたのでは何もできません。他地区とも協力し民間レベルで実績を作らなければ。みんな手弁当です。次世代に引き継がないと」と、話している。

は五百九軒だった。

大久川の三ツ森渓谷の紅葉時には、現在多くのハイカー・レクリエーションの場

合併前夜——大久村

（出典・市資料などから）

幕領小名浜の管轄にも。

交通網は、地域を二分するよ

うにJR常磐線が走り、並行して海岸線沿いに県道369号（旧国道6号）、線路をはさみ国道6号バイパス、四千口西方には常磐自動車道、主要地方道のいわき・浪江線も走っている。

大久は、昭和の歌謡界に大きな足跡を残した霧島昇の出身地であり、「誰か故郷を想わざる」の歌碑も建つ。

霧島昇の歌碑も建つ

戦国時代、飯野平城を本拠地とした岩城氏は天文三（五三四）年、相馬氏と木戸・金剛川（柏葉町）付近で合戦。

文禄四（五九五）年、岩城領検地では「小ひさ村五〇六石」「大ひさ村一二五石」などと記されている。

平藩となり、支配下に置かれた。その後、延享四（七四七）年、内藤家の延岡転封に伴い、

■次回は旧・三和村編

合併前夜——大久村

（出典・市資料などから）

関ヶ原の戦い後、慶長七（一六〇二）年に鳥居氏が磐城

（五三四）年、相馬氏と木戸・

金剛川（柏葉町）付近で合戦。

文禄四（五九五）年、岩城領

検地では「小ひさ村五〇六石」「大ひさ村一二五石」などと記されている。

霧島昇の歌碑も建つ

戦国時代、飯野平城を本

拠地とした岩城氏は天文三

（五三四）年、相馬氏と木戸・

霧